

募集内容・出願方法について

募集人員	20名程度
受講期間	令和8年4月中旬～翌年2月中旬（計40日間） 原則毎週木曜日18:00～21:00（計80コマ120時間）
開催場所	山梨大学 水素・燃料ナノ材料研究センター 他
受講料	無料（ただし、講義及び実習等に係る費用として実費（事業主負担）を申し受ける場合があります。）
出願資格	次の各号のいずれかに該当する方で、全講義（実習含む）に可能な限り出席でき、かつ、実習におけるグループ活動に協調いただける方 (1) やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトへ参加し、現在、水素・燃料電池分野で活動している、または今後、同分野への参入を目指している県内に事業所もしくは営業所等がある企業に勤務している方で、所属長の推薦が得られる方 (2) 水素・燃料電池分野において、技術、経営面等で県内製造業との連携や支援を行う企業・団体等に勤務し、所属長の推薦が得られる方 (3) 工学系大学、又は高専卒業程度の工学系基礎知識、設計・生産等の実務経験のある方で、県内の水素・燃料電池関連分野での就職又は起業を目指す方
出願方法	(1) 出願書類に必要事項をご記入の上、下記の提出先に郵送又はメールにて提出してください。 出願書類は、右QRコードよりお申し込みください。 メールにてデータをお渡します。 (2) 出願締切：令和8年3月31日(月)必着

詳細については、山梨県ホームページにてご確認ください。

水素・燃料電池産業技術人材養成講座

山梨大学講座専用ページ：<https://sway.cloud.microsoft/xUsAOCNdYWMXNjEK?ref=Link>



お問い合わせ先（出願書類提出先）

国立大学法人山梨大学 研究推進・社会連携機構
 水素・燃料電池技術支援室内 水素・燃料電池産業技術人材養成講座担当
 〒400-0021
 山梨県甲府市宮前町6-43
 E-mail: hfc-info@yamanashi.ac.jp
 TEL/FAX: 055-254-7161

受付時間：平日（月～金）8時30分～17時15分
 ただし、年末年始（12/29～1/3）を除く

令和8年度 山梨大学 水素・燃料電池産業技術人材養成講座 （やまなし地域活性化雇用創造プロジェクト）



本講座を開講する山梨大学は、国家プロジェクト等により燃料電池に関する研究を50年以上も前から進めてきた世界最高レベルの研究拠点です。その成果は大手企業の製品にも活用されるなど、高度な技術を有しています。

【当講座受講のメリット】

- ① 水素・燃料電池関連製品開発に関する知識・技術の習得
- ② 水素・燃料電池関連の規制等に関する知識の習得
- ③ 講師や技術者等との人的ネットワークの構築
- ④ 受講企業との人的ネットワークの構築（修了生のOB会）
- ⑤ 講座終了後の手厚いフォローアップ



※ 本事業の募集は、山梨県の令和8年度予算成立後、速やかに事業を開始できるようにするため、予算成立前に募集の手続きを行うものです。本事業の実施は、令和8年度予算の成立が前提であり、今後、内容等が変更・中止になることもありますので、あらかじめご了承ください。

やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトにおける 水素・燃料電池産業技術人材養成講座

講義内容

- 講義は「共通講義」「A:水素技術コース」「B:燃料電池技術コース」で構成しています。原則は全講義の受講ですが、A又はBのいずれか一方のみの受講も可能です。

※ カリキュラムの主な内容のみ掲載しています。詳細は募集要項をご覧ください。

区分	講義名	内容
共通	基礎学問	水素・燃料電池概論
		電気化学基礎、熱交換
		知的財産
	構成材料	電極設計、電解質膜
		触媒電極解析、触媒製造
	セル・スタック	スタック設計、運転、解体
選択A	水素技術	水電解
		水素ステーション
		水素貯蔵・容器・輸送
		水素供給インフラ・設置工事
選択B	燃料電池技術	水素ボイラー(熱利用)
		定置用燃料電池システム
		SOFCセル構造・材料、システム
		自動車用
共通	市場動向 普及啓発	フォークリフト用
		小型モビリティ用
		水素安全
	修了実習	国の政策・各国動向・市場動向
		基準・標準・法令
	施設見学会 成果報告会	システム製作実習
		水素・燃料電池関連施設見学
		修了実習報告会

【講師陣】令和7年度実績

- 基礎学問、基礎技術、応用技術全般を大学講師陣、企業の第一線で活用されている(いた)方を講師として招聘

山梨大学:水素・燃料電池ナノ材料研究センター、クリーンエネルギー研究センター 等
民間企業:東芝エネルギーシステム、Panasonic、JFEコンティナー、豊田自動織機、三浦工業、日産自動車、東京ガス、ブラザー工業、三菱ガス化学、ホンダ、インテリジェントエナジー、エノア、FC R&D、みずほR&T、カナデビア
田中貴金属工業

団体:技術研究組合FC-Cubic、日本自動車研究所(JARI)、九州大学
水素供給利用技術協会(HySUT)、水素バリューチェーン(JH2A)

『水素・燃料電池産業技術人材養成講座』とは

- 2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現へ向けて注目を集める水素と燃料電池について、その仕組みから製品技術、開発プロセスなど、業界の第一線で活躍する講師陣から直接学べる講座を山梨大学水素・燃料電池ナノ材料研究センターに開講します。

NEW

- 令和8年度の人材養成講座では、令和7年度に開講した「水素供給インフラ周辺ビジネス人材養成講座」を本講座に統合し、水素・燃料電池産業全体(基礎、応用(製作実習)、周辺ビジネス)を網羅した実践的な講座体系へ再編いたします。

基礎から学べるので初心者の方でも安心です！業界の第一線の知識・技術を習得するチャンスです！

「やまなし地域活性化雇用創造プロジェクト」

良質で安定的な正社員雇用の確保及び職場への定着を図るため、県内企業の働き方改革や生産性向上の取り組みを支援するとともに、求職者に対する就業支援等を行うプロジェクトです。

講義の様子



▲座学の様子



▲実習の様子



▲県外施設見学の様子

修了生の声

基礎的な燃料電池の構造・各部材の役割を内容をアカデミックな側面から学ぶことができたことは大変貴重であった。
仕事をしていく上で、インターネットなどを活用しながら理解を進めていましたが、実際の最前線で戦われている講師の実体験は説得力もあり、インターネット上では知れない内容ばかりであった。

グループ討議では、他社の方々と意見交換を行う貴重な機会を得ることができた。
普段は社外の方とディスカッションする場が多くないため、異なる視点やアプローチに触れたことは大きな刺激となり、学びをさらに広げるきっかけとなった。

水素エネルギーはただの技術ではなく、安全性や国際的なルール、設備の仕組みなど細かく整えられているとわかり、「水素は危ないもの」という考えが変わった。
これからは、水素やエネルギーについて、もっと広い視点で考えていきたい。

講義を通して、自社の持つ技術も視点を変えれば新たな価値を生み出せるのではないかと感じた。
今後は既存の設備やノウハウを他分野や地域課題とどう結びつけられるかを意識しながら、業務に取り組みたいと考えている。